

2018年度 事業計画

はじめに

協会は2018～22年度を計画年次として中期計画を策定した。「がんに負けない社会をつくる」という大きな目標のもとに、①がん予防・がん検診の推進②がん患者・家族の支援③がんの正しい知識の普及啓発を3つの柱として掲げた。18年度は中期計画の初年度であり、また協会創立60周年の年でもある。がん征圧を目指して実りある1年になるように全力を尽くす。

18年度の新規事業は以下、(新)と記した。中でも、①禁煙活動をさらに進めるため「新禁煙宣言」②グループ支部と連携したがん検診受診率向上対策とAC(公共広告機構)広告展開③がん患者支援をさらに進めるための「ピアサポート事業」は、重点新規事業として力を入れる。11月には創立60周年記念イベントを計画する。

グループ支部との連携

各事業を実施するに当たって重要なのは、グループ支部との連携だ。18年度の事業のうち、特に「がん検診受診率向上」については支部との共同作業を一層強める。リレー・フォー・ライフなどの患者支援事業、がん征圧月間などの啓発イベントも従来同様、支部と共に盛り上げる。

【1】がん予防・がん検診の推進

《1-1》がん予防推進

・新禁煙宣言、提言・要望活動

がん予防の中心は禁煙推進である。厚労省は2018年2月、健康増進法改正案を発表したが、20年の東京五輪・パラリンピックに向けた受動喫煙防止策としては極めて不十分だ。あらゆる公共場所での受動喫煙防止と禁煙推進を目指して、医師会をはじめ他団体と共に署名活動や要望書提出を行う。

(新)2003年に発表した「禁煙宣言」から15年たち、新型たばこなど新たな問題が出てきたことから、2018年度中に「新禁煙宣言」を出し、禁煙活動をさらに積極化することをアピールする。

・「グローバルブリッジ」との連携

米国禁煙推進団体「グローバルブリッジ」との提携事業については18年度、

さらに継続・発展を図る。日本国内の助成対象 16 団体のプロジェクト管理、活動支援をする。

・「タバコフリーキッズ」、「ゼロ宣言」表彰検討

子どもによる禁煙提言活動「タバコフリーキッズ」は 18 年度、岡山・神奈川県で開催する方針。禁煙ポスターは例年通り制作する。

(新) タバコや受動喫煙の「ゼロ宣言」をする企業・自治体を増やすため、ゼロ宣言をした企業・自治体などを表彰する。

《1—2》がん検診推進、将来研究

・受診率向上、受診者拡大対策

検診受診率 50%の早期達成、特に未受診者の掘り起こしを目指して 17 年度、支部の若手有志とともにワーキングチームを設けた。18 年度は各支部で取り組む受診率向上の事例を改めて分析し、成功モデルを探す。

(新) 協会は 2017 年度に続き AC (公共広告機構) の支援先団体に採択されたため、18 年度は新たに検診受診率向上に焦点を当てた CM を作り、テレビ・新聞・交通広告で流す。

無料クーポン券配布やポスター、リーフレットによる受診率向上 PR、自己採取 HPV 検査を通じた子宮頸がん検診の勧奨も引き続き行う。

・がん検診実施状況、実情調査

支部では毎年度、延べ 1 千万人以上のがん検診を実施している。その結果をまとめた「がん検診年次報告」を例年同様に作成する。発見したがんの治療を 1 年間追跡した「追跡調査」も記載する。胃がん検診で日本消化器がん検診学会が策定した胃 X 線検診のための読影判定区分の活用を進めると共に、胃内視鏡検査の今後の展開について、勉強会を検討する。

(新) 胃がん ABC リスク評価の実情調査も行う。15 年度は 16 支部で 4 万人近くを対象に実施していた。16 年度については集計中だが、4 万人を超える人を対象に実施したとみられる。この中で、X 線検診と併用しているケースについて、X 線の検査結果と、ABC リスク評価の結果を照らし合わせる。

・すい臓がんの早期発見研究

国立がん研究センター研究所が開発した血液バイオマーカーを用いた研究。鹿児島県支部の協力で 18 年度も実施する。17 年度は約 4500 人の登録が得られた。18 年度は鹿児島県のほか神戸市でも実施し、計 1 万人登録を目指す。

・乳がんリスク層別化の研究

定期検診の有無や運動量などを検診受診者にアンケートして、検診結果を突き合わせて層別化を図る研究。17 年度はアンケートを試作し、一部受診者に入力してもらった。18 年度はこれを改良して複数支部で本格的に実施する。

・将来の検診手法研究

がんの罹患状況が変わる中で、高齢者のがん検診のあり方についても引き続き研究する。リキッドバイオプシーなど新たな検診手法の研究開発の情報収集に努め、支部の関心にこたえられるような対応を検討する。

【2】がん患者・家族支援

《2-1》リレー・フォー・ライフ(RFL)・ジャパン

2017年度は全国 49カ所で開かれた。18年度は51カ所での開催を目指す。新規開催地は金沢で9月に予定している。四日市(三重)、秋田でも実行委員会結成の動きが高まっており、18~19年度に開催できそうだ。中期計画の最終年度(22年度)には全都道府県でRFLが開催できるようにする。

長年活動を続けている地区では、実行委員の減少、後継者不足といった悩みを抱えている。こうした地区では、協会と実行委員会とのコミュニケーションをこれまで以上に強める必要がある。そのために協会代理人として現地で活動する「スタッフパートナー」「ブロックスタッフ」を18年度増員する。また、実行委員会向けトレーニングの内容を充実させ、実行委員がRFLの趣旨を深く理解してもらえるようにする。

(新) RFLを多くの人に知ってもらうため、ホームページやSNSでの紹介を積極化する。若い世代に広げるため、開催時間を数時間に縮小した「ミニRFL」を高校などで開くことを今後、検討する。

(新) 活動を支える寄付を増やすため、18年度からはWeb上での寄付ができるようにする。売上金の一部がRFLの寄付につながる飲料水自販機の設置も増やしたい。

寄付金の使途については、「プロジェクト未来」「海外奨学医」「がん無料電話相談」「検診受診率向上」という既存4事業のほか、各実行委員会からの要望をくみ取って、新たな使い道を検討する。

《2-2》無料がん相談

・がん相談ホットライン

看護師、社会福祉士の資格をもつ相談員18人でローテーションを組み、祝日と年末年始を除く毎日、相談に応じる。2017年度の相談件数は過去3年と同様、1万件を超える見込み。18年度は相談員を増員して新任相談員の研修、現任相談員の継続研修を充実させ、相談の質の維持・向上に努める。多くの方にホットラインを知ってもらうために広報の拡充を行う。

・がん専門医による医師相談

医師による無料相談は他に例が少なく、経験豊富ながん専門医8人が電話と面接で相談に応じる。18年度はニーズの高い部位の相談枠を多く設け、電話を中心に面接と合わせて年間209回、延べ680人(母の日の乳がん電話相談除

く)の相談を見込む。

・母の日の乳がん電話特別相談

母の日を前にした5月7～11日、「専門医による乳がんの無料電話相談」を実施する。1日8人、計約40人の患者の相談に乳腺専門医が応じる。

《2—3》がんサバイバー・クラブ

2017年6月にスタートした。現在、個人会員191人、法人会員34団体で、メルマガ登録者数は1200人を超え、メルマガ開封率は40%台を維持している。18年度はWebでのがん関連の注目ニュース発信や全国の患者会情報、イベント情報、社労士による就労支援をするほか、患者支援セミナーなどのリアルイベントにも力を入れる。

垣添忠生会長が18年2月から7月までの予定で、全国がんセンター協議会加盟32病院を歩いて回る「全国縦断 がんサバイバー支援ウォーク」を始めた。九州から北海道まで約3500キロの道のりで、サバイバー支援ののぼりを立てて歩き、患者支援を訴える。垣添会長の道中の様子をWebなどで知らせると共に、患者間のオンライン上のコミュニティーを設けるため、クラウドファンディングを使った寄付呼びかけを行う。

(新)さらなる会員増を目指して、抗がん剤治療をする患者が、どのような食事の工夫をしているかを情報提供し合うようなサービスを検討する。

(新)《2—4》ピアサポート事業

協会は2013年度、厚労省受託事業としてがんのピアサポーター養成に関する運用マニュアルを作り、全国に配った。2018年度からは、新たに患者サロンを協会自ら開き、患者や家族の心を支える場所を作る。また、がんサバイバーやその家族を対象としたピアサポーター養成講座を開き、当事者同士が支えあう場所を広げる。またそのノウハウや運営手法を各地に拡散することを目指す。

《2—5》患者向けセミナーなど

女性のがん患者向け美容セミナーを引き続き開催する。また、乳がんをなくすための「ほほえみ基金」に集まった寄付金をもとに、全国の乳がん患者団体や啓発団体に活動助成金を出す。各団体の事業内容を精査し、審査した上で助成する。

【3】正しい知識の普及啓発

《3—1》ピンクリボンフェスティバル

2018年度はスマイルウォークを東京と神戸で、シンポジウムを東京で開く。スマイルウォークでは、専門医とゲストのトークショーで乳がんの正しい知識、

正しい検査の受け方を伝えるほか、検診車を会場に用意し、乳がんの無料検診を実施する。神戸のスマイルウオークは 15 周年の記念大会となる。神戸の推進委員会と連携し、地元ならではの取り組みを検討する。

シンポジウムでは、患者支援の視点から乳腺外科、腫瘍内科、精神腫瘍科の専門医に、最新治療情報や心のケアについて講演をお願いする。同じ日に「なかま Café」を開催し、がんサバイバーや家族を支援するための相談会、患者会の活動紹介をする。

啓発ポスターデザインやコピーを公募するピンクリボンデザイン大賞も引き続き開催する。母の日から作品募集を始め、10 月にはポスターのグランプリ作品のデザインによる「メッセージポスター」を交通広告に活用して、各地での啓発に役立てる。公式サイトやフェイスブックなどの SNS を活用し、定期的な検診の受診を呼びかけ、乳がんについての正しい知識を広める。

このほか、若い世代の女性が乳がんにもっと関心を持ち、40 歳になると必ず検診受診してもらえるような若年層向けセミナーを、東京で予定している。

例年、仙台で行ってきたスマイルウオークは、宮城県内の受診率向上に効果があったことなどから 18 年度は開催せず、街頭キャンペーンにとどめる。

《3—2》がん教育

文科省は 2017 年度から、地域の実情に応じたがん教育の実施を、全国の小中学校で始めた。小学校では 20 年度、中学校では 21 年度、高校では 22 年度から、それぞれ全面実施する方針だ。教育現場では副教材作成の要望が強い。そこで協会は、文科省選定を得た「よくわかる！がんの授業」（監修・中川恵一 東大准教授）など計 4 種類の動画 DVD の増刷・供給に対応できるようにする。

また 16 年度、小児がんへの理解を促進するような教材を作成したが、その続編を検討する。出張授業への講師派遣支援は従来通り続ける。学校医向けの指導ガイドの作成については日本医師会と協議中で、引き続き検討する。

《3—3》がん征圧月間

がん征圧月間（9 月）の中心となる「がん征圧全国大会」を 9 月 14 日、千葉県支部と共に千葉市で開く。「がん征圧ポスター」は例年同様、若者へのがん啓発を目的に、高校生や大学生らを対象にしたデザインコンテストとして制作する。9 月は全国の支部でも征圧月間に絡む活動が展開されるので、協会は啓発活動をする支部に助成金を出す。

（新）2018 年度は協会創立 60 周年に当たることから、記念イベントを 11 月 11 日、有楽町朝日ホールで開催する。60 年間の活動の集大成として、協会の活動やがんについて一般の人に広く知ってもらおうとともに、がん征圧活動の未来像を示したい。協会の活動への功労者表彰も実施する予定。

《3—4》各種セミナー開催

・ほほえみ基金を生かしたセミナー、遺贈セミナー

乳がん征圧のための「ほほえみ基金」への寄付金を使って、18年度も「がん検診無料クーポン券」を発行したり、女性の健康セミナーを開いたり、乳房触診モデルを貸し出したりする。アピアランス相談など患者向けのセミナーも年4回程度開催する。基金の一部は、ピンクリボンフェスティバル、がん関連団体助成、がん相談などにも充当する。

このほか、がん啓発を行うとともに遺贈の仕組みを解説する「遺贈セミナー」を東京と大阪で開く。信託銀行が主催する遺贈セミナーにも協力を申し入れ、がん啓発の場を広げ、協会の寄付金集めの機会としても活用する。

・UICC日本委員会や学会との連携セミナー

国際対がん連合（UICC）総会が18年10月、マレーシアで開かれるので、垣添会長が出席する。UICC日本委員会と連携したシンポジウム、癌学会共催の市民公開講座、癌治療学会と連携した活動、企業提携による各種セミナーも行う。

《3—5》情報発信・広報

毎月発行の「対がん協会報」を中心に、ホームページ、フェイスブックなどSNSを使って、協会の活動レポートや、国のがん対策に関する情報や話題、がん研究の成果などを発信する。

（新）ホームページは、スマートフォン対応（レスポンス対応）に切り替えると共に、寄付ページへの効果的な誘導を図る。協会の新規事業の進展に伴い、適宜リニューアルし、協会への支援、寄付拡大を目指す。

AC（公共広告機構）の支援先団体に2017年度に続き採択されたため、18年7月から「がん検診」をテーマにしたキャンペーンを1年間行う。

制作物では、グループ支部や自治体からのニーズが高いリーフレット2種とポスター2種の作成に加え、新たな啓発刊行物の発行を検討する。毎年更新している協会案内パンフレットについては、事業の拡大や中期計画の策定、協会60周年に対応するため、増ページして作成する。

《3—6》研修、研究助成、奨学制度、表彰

検診事業を支える保健師・看護師の研修、乳房超音波技術講習会、マンモグラフィ撮影技術講習会、診療放射線技師研修会を、2019年1～3月に開催する。いずれの研修会も、支部だけではなく広く一般から受講生を募集する。胃がん内視鏡検査についての研修会・勉強会も検討する。

優れたがん研究に助成金を贈る「プロジェクト未来」は、リレー・フォー・ライフの寄付金をもとに2018年度も実施する。「基礎研究・臨床研究部門」と「患者・家族ケアに関する研究部門」に分け、計1750万円を約20団体に贈る

予定。今後については、助成先や制度の内容を検討していきたい。

米国テキサス大学 MD アンダーソンがんセンターに 2 人、シカゴ大学医学部に 1 人を 1 年間研修派遣する「マイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞」も実施する。奨学金は 1 人当たり 250 万円。この事業もリレー・フォー・ライフの寄付金をもとにしている。

がん征圧に顕著な功績のあった個人、団体に対して贈る「日本対がん協会賞」、特別賞の「朝日がん大賞」は、9 月のがん征圧全国大会で表彰する。

以上